

千秀だより

横浜市立千秀小学校

11月号

平成27年(2015)10月31日



ハロウィンの光景を見ていて

校長 市川幸男

季節が過ぎてゆくのは速いもので、11月となりました。古くからこの月は霜月と呼ばれ、冬の訪れを肌で感じる月でもあります。同時に風邪やインフルエンザ、その他の感染症が流行し始める時でもあります。学校でも10月半ば過ぎから、熱やおう吐による気分不良などを理由に欠席する児童が増えて参りました。学校でも留意しますが、ご家庭での朝の健康管理よろしくお願い致します。また、子どもの体調が悪い時には無理をせず、休養に充てることが、一番の対応だと思えます。よろしくご協力お願い致します。

さて話は変わりますが、10月の末日、東戸塚駅に行く用事があり、駅から出てみると、ここは日本なのかと思うほどに、オレンジと黒の色彩と宙に吊された顔のあるカボチャの光景にびっくりしました。いつ頃からでしょうか、ハロウィンが日本でも注目されるようになったのは。

ハロウィンは、もともと古代ケルト人の秋における収穫を祝って、悪霊を追い出す行事だったそうです。それがヨーロッパ全域から米国に広がり、単なる民間のイベントになったそうです。私がハロウィンと初めて出会ったのは「スヌーピー」というコミックです。ライナスが「ぼくはカボチャ大王だ!」と叫んで、カボチャでのオー・ランタンを大量に並べて遊んでいるのを見たのがきっかけです。これは何なのだと思いに思ひ、友達に聞いても、親に聞いても誰も教えてはくれませんでした。結局大人になるまで分からないままでした。

ニュースによると日本でのハロウィン市場は1200億円超にもなり、バレンタインを上回る額になったそうです。目の前の景色と市場を視点とした話を聞くと「ああ日本人って、商魂たくましいなあ。」と思えます。クリスマス、バレンタイン、そしてハロウィン。みんな商業活動をベースにして広がり、いつの間にか季節の風物詩として定着しています。そんなことを思っ町たたずまいを見ていると、ある親子の姿が目にとまりました。子どもが顔にペイントされるのをぐずり、「何でこんなことしなくてはいけないの?」と母親に聞きます。するとお母さんは「ハロウィンだからよ。」と答えます。次に「ハロウィンって何。」「ハロウィンはハロウィンよ。」子どもはなおも、仮装の服を引っ張り「私こんな服着たくない。何でこんなかっこしなくてはいけないの?」「ハロウィンだからよ。」というような会話が、ずっと続いていきました。

朝会でこの話をすると、高学年の子ども達をはじめとして多くのものが、苦笑いを浮かべながらも、何が先生の言わんとするところなのか察したようで、頻りにうなずいていました。本校の子ども達には、私が目にした母親の姿ではなく、その成り立ちや仮装をする意味など説明できる子に育って欲しいと思えます。たとえ商業ベースがもとにあったとしても、異国の文化を知るのは良いことです。その過程で文化の本質を見つめ、それに対しての自分の考えをもち、人にしっかりとそれを伝え、理解してもらうことのできる子になって欲しいと思えます。日常の学習でも同じことがいえます。目の前の現象を追うだけでなく、現象のもととなる考えや理由、歴史等を知る。その姿はまさに、本校の重点とする「確かな知識の獲得と、考える力の育成」に、結びつくものだと思います。

10月31日から11月6日までオープンスクールが予定されています。学習に真剣に向かい、自分を高める子ども達の姿を見ていただけたら幸いに存じます。

